

徳本峠〈頂の無い〉癒し山旅報告

(山 域) : 北アルプス前衛 徳本峠

(コース) : 上高地⇔明神⇔徳本峠(徳本峠小屋 泊)

(日 時) : 前夜発 平成 28 年 10 月 9 日(日)~ 10 月 10 日(月)

(天 候) : 9 日 朝のうち雨~雲~夕刻から晴れ 10 日 晴れ

(参加者) : 田中孝平(単独)(報告)

(山行タイム) : 8 日(金)自宅 18 : 30 発⇒23 : 15 沢渡第三駐車場着(車内仮眠) 大粒の雨降り状態

9 日(土)沢渡 BT(雨上がり待ち)8 : 30⇒バス⇒上高地 9 : 30→明神(お茶 30 分)→

徳本峠 13:15 (徳本峠小屋 2 食付泊)

10 日(月)徳本峠 6 : 42→明神 7 : 20(明神池散策)→梓川右岸道経由→上高地 10 : 00

⇒バスにて沢渡 BT へ⇒往路を帰還する。(大渋滞に付き 21 : 30 に自宅着)

(山行報告) : 数年ぶりにもしかすると初雪の穂高連峰が見られるかな?と期待して山頂を踏まない癒し山旅を上高地から徳本峠へ久々に心のままに歩いてきた。

9 日(土)昨夜から大粒の雨が降って居て、急ぐ旅でも無いので車内で仮眠をユックリ、

とって上高地に着くころに雨上がりに成る時間を見越して沢渡からアルピコ

バスに乗り上高地に向かう。(何時もはタクシーだが何十年ぶりにバスに乗る)

上高地 BT で準備ができたが、まだチラチラと降って居るが 50 周年記念の防

水風呂敷をマントかわりに雨傘と合わせ下は雨カップと言う快適なスタイルで

歩き出す。中々良いではないか! 暑くは無く、伊豆の踊り子の学生さんの様に

マント姿、何とも心地良い。紫パンツ(雨具)・紫傘・紫マントである。

明神へ近づくころには雨も上がり、明神館ではお決まり、山の葡萄酒・岩魚の

塩焼き・締めコーヒー・・・私の良くやるパターンである。



30 分のんびり寛ぎ (急ぐ旅では無い) の後に徳本峠登山口より右折して徳本へ向かうが、小屋の予約時に一杯のようなことを言って居たので、本当に客が居るの?と思いながら歩くと沢山の人に会うではないか! 2 か所程の水場で美味しい水に舌鼓を打ち、2 時間余りで小屋に着いた。数年前に増築し奇麗になった新館と昔の風情の本館が以前の小屋を思い起こさせる。



このころには穂高の山並みも雲が掛かっているが見渡せる様になって来た、明日の朝に期待を寄せて小屋に入る。新館は奇麗であるが、30人で定員としているので、定員以上はお断りする山小屋である。



私は小屋を手伝う様になってから必ず、自らの酒が有っても小屋の酒も買う様に心が変って来た、今回もビールと食事で地酒を購入したが、先ずは持参の酒で、チビリチビリと一人旅と山に抱かれる心地良さを味わっていた。

夕食も特段に変わった食事ではないが、心のこもった物でゆうに、ご飯を数杯は行けるもので有った。(私は大雪溪の酒に舌鼓を打っていたので、ご飯は1杯に抑えた) 20:30 消灯であるが、30人定員の奇麗な部屋(大部屋1部屋)に羽毛布団で朝まで、ゆったりと過ごす。(お休みなさい)

10日(月)上高地に下山するだけで有りユックリと起き5:30の朝食前には何もせず食事を待つ、朝も十分にお替りが出来る食事であった。美味しく頂きノンビリ寛いだ。テンバは30張分張れ、小屋も30人定員の時はトイレが少ない為(大2個・小1個)で有るため混むが今日は急がない、急がない、のんびり空くの待つ。身支度が終り見晴台よりクッキリ見える明神岳と穂高連峰を写真に収めて帰途に、ついた。





下山は1ピッチで明神に着き、コーヒータイムの後に久しぶりに明神池に参拝して
竜神に家族の幸せと我が山の無事を祈った。



上高地には梓川右岸の日頃は通らない散策道をかっぱ橋まで写真を撮りながらノン
ビリと歩き、かっぱ橋に戻る。





本当は田代池・大正池まで足を延ばそうと考えたが、高速の渋滞を考え、バスに乗り沢渡に帰着いた。途中でリンゴを購入して諏訪湖 SA で入浴を済ませて帰還した。



